広島大学大学院医系科学研究科広報誌　第６号

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

研究力強化・国際化のために

大学院医系科学研究科長　丸山　博文

研究科長に就任して約半年が経過しましたが、会議や打ち合わせ、処理する案件の多いことに驚き、大人数での会合がないにもかかわらず「こなすことで時間が過ぎた」というのが正直な印象です。歴代研究科長の方々の研究科運営へのご尽力にただただ頭が下がります。

表題の研究力強化のための取り組みのポイントとして、霞動物実験施設の増築、学際的研究推進部会、広大霞Lab Secretaryの3つが重要と考えます。霞動物実験施設の増築部分のSPF（Specific Pathogen Free）化をどのように運用するかについて、現在ユーザー会を中心に議論いただき、予算も睨みながら実現可能性を検討いただいています。SPFを徹底するとコストが嵩むなどのこともあり、利用利便性とのバランスをどう取るかが課題です。学際的研究推進部会はCOVID-19の影響により、各部会ともWebを利用した活動に制限されています。東広島キャンパスの統合生命科学研究科との連携も模索されていましたが、当面は霞キャンパスのみの活動となりそうです。各部会で若手の研究者にどの様に活動に加わってもらうか試行錯誤されているところです。広大霞Lab Secretaryは、運営委員の皆さんに大変精力的に活動していただき、予算がない中、着実に利便性の向上が図られています。本年4月から毎月、NEWSのメール配信も開始されました。ぜひ研究費獲得に向けた共同研究の提案や研究リソースの共有を進めていただき、研究力向上に活用いただきたいと思います。現在は予算の関係上、ユーザー登録数が制限されているため研究室単位での登録となっていますが、利用が促進されれば、その範囲を拡大することも視野に入れています。

国際化の推進という点では、英語での授業の充実およびWebやオンデマンドの授業の拡大を進めていく必要があります。来年度からは大学院の入試についても外国語の筆記試験は廃止し、「外国語4技能を測定可能な資格・検定試験」を活用することが決定しています。医系科学研究科ではCEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）のA2以上のレベルであることを求めることになります。さらに国費留学生の優先配置枠についても計画が複数存在しています。東広島キャンパスのIDEC（International Development and Cooperation）機構にも参画し、国際化を推進していきたいと思います。

今後、各研究室のみなさまと意見交換の場を設ける予定です。建設的なご意見を頂戴したいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

目　次

Preface　巻頭言
「研究力強化・国際化のために」…… 丸山　博文　1

Greetings　ご挨拶
「就任のご挨拶」…… 大上　直秀　2
「就任のご挨拶」…… 堀江　信貴　2
「就任のご挨拶」…… 日向　信之　3

Activities　新設講座紹介
「核酸医薬共同研究講座について」…… 田原　栄俊　3

My Motto　座右の銘
「流れる水は澱まず濁らず己を知るものは剛し」…… 田中　純子　4
「人生、「諸法無我」で行こう！」…… 入船　正浩　4

Excellent Paper　すぐれた論文
「メンデル遺伝型マイコバクテリア易感染症における多発性骨髄炎の発症メカニズムを解明」…… 岡田　賢　5

Research Frontline　研究最前線
「脳科学から手外科にアプローチする」…… 砂川　融　6
「体細胞クローン技術を活用した新たな放射線影響解析技術の開発」…… 神沼　修　7

Topics
「原爆放射線医科学研究所 放射線先端医学実験棟 看板除幕式を開催しました」…… 田代　聡　8

編集後記…… 中野由紀子　8

広島大学